

## 第4 回海外研修／ 4th Overseas Study Tour

(於タイ) / in Thailand

August 2005

【日本「アジア英語」学会ニュースレター第18号  
より

Excerpt from JAF AE Newsletter, No. 18】

### 2005 年タイ国際交流研修

竹下裕子 (東洋英和女学院大学)

2005 年8 月28 日、会員を乗せた3 機の飛行機が次々とバンコクに降り立った。関空から橋内氏、中部国際空港から津田氏とラファイエ氏、成田からは本名会長、牛山氏、大和田氏、鈴木氏、竹下の計 8 名がバンコク国際空港で無事、合流した。Twin Towers Hotel にて夕食後、翌日からのハードスケジュールに備え、夜遊びもせずに就寝。続く3 日間の行程は次のとおりであった。

29 日(月) 朝食後、トンブリー・ラジャバット・大学 (Dhomburi Rajchabhat University) 主催のセミナー“English Language Teaching in Thailand and Japan”に参加。昼食後、学内見学。のち、会長と竹下は国会議員との面会へ、残りの会員は市内観光。夜、大学関係者とチャオプラヤー川のディナークルーズを楽しみながら懇談。

30 日(火) 朝食後、聖ジョセフ修道学校 (St. Joseph Convent School) を訪問、教員との懇談と授業参観、および校内見学。午後、ポティサーン学校 (Phothisarn School) を訪問、同じく教員との懇談と授業参観および校内見学。

31 日(水) 朝食後、チュラロンコーン大学ランゲージインスティテュート(Chulalongkorn University Language Institute: CULI) を表敬訪問、教員との懇談と授業参観。キャンパス内インターナショナルハウスで教員と昼食後、自由行動を経て鈴木会員と竹下を残し、6 名が 3 機に分乗してバンコク発、翌1 日に無事

帰国。

29 日のセミナーは、我々の渡泰に合わせてトンブリーが企画して下さったもので、大学関係者に加え、中高の教員が研修目的で参加した。本名会長がアジアの英語事情とアジア英語の重要性に関する講演を、竹下が日泰コミュニケーションに関する研究発表をした。トンブリーからは、タイの英語教育に関する講演が行なわれた。我々全員が主賓扱いを受け、ひとりずつ、記念品を授与される場面までであった。ラジャバットとは、旧教育大学の総称で、今は総合大学となっているが、のちに訪問した名門チュラロンコーン大学とは規模も雰囲気も異なる。

翌日の 2 校はいずれも、先進的な英語教育で有名である。聖ジョセフは、女子の小中高で、カトリックのシスターのもと、良家の女子が厳しく熱心な教育を受けている。日本人の留学生にも会った。ポティサーンは普通科と英語科を備えた大規模な小中高で、英語科はネイティブスピーカーの教員を多く抱え、徹底したバイリンガル教育を実施している。

代々、王家の子女が学ぶことで有名なチュラロンコーン大学の CULI は、約 100 名の英語教員の大集団である。4 つの教育機関への訪問は全て、CULI のスパット教授の尽力により実現したものであった。

短期間ではあったが、行く先々で歓待され、タイ人と英語によるコミュニケーションを図り、タイ文化に触れ、驚き、感動し、時には呆れ、また共感する旅であった。この国際交流研修で得たいくつかの小さなご縁を、学会の今後の発展に活かしたいと祈念する。